

【概要・目標】

倫理的思考を基盤に患者とその家族のQOLへの配慮や診断初期からエンド・オブ・ライフにある患者への緩和ケア，化学療法，放射線療法(ゲノム医療を含む)，先進医療を受けるかどうかの意思決定支援，社会的支援，がん患者のセクシャリティーにおいて，がん看護専門看護師としての具体的な援助について，文献と症例を交え理解する。

1. 臨床における倫理的思考の必要性を理解し，患者の権利と尊厳のみならず看護師や他の医療者との関係性を考慮した援助を修得できる。
 2. 告知後の患者・家族の精神的側面の理解と優先される症状緩和をアセスメントし，患者・家族のQOLを尊重した援助方法を修得できる。
 3. 化学療法，放射線療法における有害事象対策，セルフケアへの支援，患者・家族への教育的な援助方法を修得できる。
 4. 治療からエンド・オブ・ライフに至るまでの患者・家族の局面を理解し，QOLを尊重した意思決定支援方法を修得できる。
 5. セルフヘルプの役割や意味を捉え，がん看護専門看護師に期待される役割および必要な援助について述べることができる。
-

【授業内容・スケジュール】

1. 医療における倫理原則，臨床での倫理的問題と課題に関して教授する(講義：山田)。
 2. 学生が臨床での倫理的な問題を含んだ困難事例を倫理原則にそってアセスメントしプレゼンテーションを行う。倫理的ジレンマと患者の利益に関してディスカッションを行う(演習：山田)。
 3. 学生は臨床腫瘍学での学びを踏まえ，がんゲノム医療の今後の展望と意思決定支援の問題・課題について，プレゼンテーションを行いディスカッションする(演習：山田)。
 4. がん患者の告知直後の心理状況と優先される看護援助を教授する(講義：山田)。
 5. 告知後の援助の実際について，症例を交えて教授し，治療の選択，治療をしない選択，患者の揺らぎに関する援助についてディスカッションする(講義・演習：山田)。
 6. 放射線療法におけるがん患者・家族への援助について教授し，具体的な援助方法について症例を交えディスカッションを行う(講義・演習：長尾・山田)。
 7. 放射線療法に伴う「有害作用」と症状マネジメントについて教授し，具体的な援助方法について症例を交えディスカッションを行う(講義・演習：長尾・山田)。
 8. 化学療法に伴うがん患者・家族への援助について教授し，具体的な援助方法について症例を交えディスカッションを行う(講義・演習：山田)。
 9. 化学療法に伴う「有害作用」と症状マネジメントについて教授し，具体的な援助方法について症例を交えディスカッションを行う(講義・演習：山田)。
 10. エンド・オブ・ライフにある患者と家族の全人的苦痛を踏まえた援助の実際について症例を示しながら教授する(講義：山田)。
-

11. 学生が全人的苦痛を抱えたと考えるエンド・オブ・ライフにある患者の症例を示し、全人的苦痛についてアセスメントし QOL を向上させるアプローチについてディスカッションする(演習：山田)。
12. がん患者の性の問題とセクシャリティーに関しての倫理的な配慮とケアについて症例を交えて教授する(講義：山田)。
13. 学生が臨床で遭遇したがん患者の性に関する問題のあった症例について、倫理的視点を踏まえアセスメントし、プレゼンテーション、ディスカッションを行う(演習：山田)。
14. 15. がん患者サロン見学：一般社団法人「らふ」を現地訪問し、がん患者とその家族とのディスカッションを行い、がん患者会やセルフヘルプグループの役割とがん患者・家族へのがん看護専門看護師としての援助についてディスカッションする(演習：山田)。

【評価】

下記の事項について、総合的に判断して評価する。

1. がんプロ e-learning, 指定文献の読み込みとその理解状況（プレゼンテーションおよび意見交換）30%
2. 出席状況と授業への取り組み 30%
3. がん患者サロンの見学と学びから、就労支援を含むがん患者と家族に対するがん看護専門看護師としての役割についての課題レポート 40%

【テキスト】

配布資料

【推薦参考図書】

1. 柏木哲夫：生きること寄り添うこと，いのち言葉社，2013.
2. 高垣忠一郎：生きることと自己肯定感，新日本出版社，2010.
3. アメリカがん看護協会編/高橋郁他：がん患者の幸せな性-あなたとパートナーのために，春秋社，2002
4. 清水哲郎：医療現場に臨む哲学，勁草書房，2009.
5. シェルドン コーエン他/小杉 正太郎他（翻訳）： ソーシャルサポートの測定と介入，川島書店，2005.
6. Max Watson , Rachel Campbell , Nandini Vallath , Stephen Ward , Jo Wells. Oxford Handbook of Palliative Care. Oxford University Press. 3. 2019.
7. 有森直子・溝口美満子(編)，井ノ上逸朗(監)．遺伝/ゲノム看護．医歯薬出版株式会社，2018.
8. 西垣昌和・渡邊淳(編)，中込さと子(監)．基礎から学ぶ遺伝看護学「継承性」と「多様性」の看護学．羊土社，2019.
9. 佐々木常雄・岡元るみ子(編)．新がん化学療法ベスト・プラクティス．照林社，2014.

【その他】

連絡先：yamada-s@wakayama-med.ac.jp